

『マニフェスト白書 2006 - 小泉政権の成績表 - 』要点

PHPマニフェスト検証委員会[編]

PHP総合研究所発行

【検証方法】

評価対象 :自公与党の2004年参議院選挙および2005年衆議院選挙のマニフェスト

評価方法 :図表1で示すように、マニフェストに示された個別政策が5段階の進捗状況のどのレベルにあるかで点数(「進捗度」)をつけ、さらにその政策の「難易度」を0~1の間で評価し、それらをかけ合わせたものを「達成度」として25点満点であらわすようにしている(図表2)。

図表1 進捗度と難易度

進捗度
着手(0~5点) 政策の実現に向けて何かを着手したというもっとも初期の段階
検討(6~10点) 実現に向け何らかのかたちで実際の議論などを進めている段階
具体化(11~15点) 議論の段階から、実際の実施に向けた具体的な方策が示される段階
実施(16~20点) 政策を実施する段階
効果(21~25点) 政策を実施した結果として効果があらわれている段階
難易度(0~1点) 政策の実現が比較的容易か困難か

図表2 個別政策の達成度の計算式

$$\text{達成度}(0\sim 25) = \text{進捗度}(0\sim 25) \times \text{難易度}(0\sim 1)$$

個別政策を束ねる政策分野ごとの評価は、「進捗度」「難易度」「達成度」いずれに関しても、その政策分野における個別政策評価の平均値を算出し、それに満点が100点になるように調整。全体の平均は政策分野の得点の平均値。

【04年参院選マニフェスト】

自民の進捗は昨年より11ポイントアップの69点、公明は4ポイントアップの62点

自民

進捗度の平均69点は「やるといったことをすべて行なった=80点」(やることをすべて行い、期待した効果が出た=100点)には至らないが、それに向けての取り組みを相当程度実施したと評価できる。

議論の段階あるいはそれ以前」と評価された個別政策は全121項目のうちわずか1項目。

全体の30%の項目は「マニフェストに示したことを実施し効果を出しつつある」段階。

政策分野別では、「外交・安保」が73点と最高得点。最低が「教育」の62点。

政策の難易度を加味した「達成度」(いかに難しいことを進めたか)では、全体で34点と昨年より6ポイントアップ。「行財政」「外交・安保」が最高の41点、「環境」が最低の22点。04年参院選後の小泉政権は「行財政」と「外交・安保」に傾注したといえる。

図表 3:2004年参議院選挙自民党マニフェスト評価

	2005年評価			2006年評価		
	進捗度	難易度	達成度	進捗度	難易度	達成度
政治	38	0.45	21	68	0.45	32
行財政	59	0.59	34	70	0.59	41
経済	58	0.48	27	70	0.48	33
生活	66	0.48	31	70	0.48	33
教育	50	0.60	26	62	0.60	35
環境	68	0.30	20	72	0.30	22
外交・安保	66	0.57	37	73	0.57	41
平均	58	0.49	28	69	0.49	34

公明

進捗度の平均62点は「議論の段階から実施に向けた具体的な方策が示され、部分的に実施が開始された段階」。

議論の段階あるいはそれ以前」と評価された個別政策は全123項目のうち14項目と昨年とほとんど変わらず。全体の20%の項目は「マニフェストに示したことを実施し、効果を出しつつある」段階。

政策分野別では「教育」が71点で最高得点。「外交・安保」が最低で44点。

達成度は全体で昨年より1ポイントアップの26点。分野別では「教育」が最高の35点。「外交・安保」が最低の19点。

図表 4:2004年参議院選挙公明党マニフェスト評価

	2005年評価			2006年評価		
	進捗度	難易度	達成度	進捗度	難易度	達成度
政治	54	0.50	24	56	0.50	25
行財政	66	0.42	27	70	0.42	28
経済	58	0.41	24	68	0.41	28
生活	59	0.41	24	64	0.41	26
教育	69	0.51	34	71	0.51	35
環境	59	0.43	22	63	0.43	23
外交・安保	43	0.43	18	44	0.43	19
平均	58	0.44	25	62	0.44	26

【05年衆議院マニフェスト】

自民の進捗は継続中を掲げたため63点と高得点、公明は前回1年目とほとんど変わらず57点

自民

04年参院選マニフェストに比べ、政策の難易度が全体的に低下。政策分野別では「行財政」「経済」「生活」「教育」が低い。改革が進められたことで、掲げた政策が「継続」中心になったのが理由。

それによって、進捗度は全体的に得点が高く、平均は04年参院選マニフェストの1年後の評価より5

ポイント高い63点。これは「議論の段階から実施に向けた具体的な方策が示され、部分的に実施が開始された段階」。

「政治」と「環境」では難易度が大きく上昇、これは今後の重点課題としての扱いか。

政策分野別では「外交・安保」「政治」が「進捗度」「達成度」の双方で高く、自民のこの1年の努力の方向性が見える。

「教育」「環境」「生活」の分野で公明のマニフェストの内容が取り入れられ、自民の「小さな政府」という理念がぼやける。

図表5：2005年衆議院選挙自民党マニフェスト評価

	進捗度	難易度	達成度
政治	69	0.53	37
行財政	58	0.45	26
経済	65	0.37	23
生活	63	0.39	24
教育	60	0.38	22
環境	59	0.50	27
外交・安保	68	0.58	39
平均	63	0.46	28

公明

全体的に進捗度、難易度、達成度すべて04年参院選マニフェストの1年後の評価とほぼ同じ。進捗度平均57点は、「議論の段階から実施に向けた具体的な方策が示される段階」。

政策分野別にみると「経済」「教育」「環境」での進捗が高く、「政治」が際立って低い。

04年参院選マニフェストで手薄の感があった「行財政」「外交・安保」の分野で自民と同内容のものが取り入れられた形跡があり、それが両分野での「達成度」が高くなった理由か。

図表6：2005年衆議院選挙公明党マニフェスト評価

	進捗度	難易度	達成度
政治	33	0.70	25
行財政	58	0.49	29
経済	66	0.37	23
生活	57	0.36	21
教育	63	0.37	23
環境	65	0.36	23
外交・安保	57	0.45	26
平均	57	0.44	24